

第99回 地域まちづくり推進委員会横浜市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和5年2月26日(日) 16:00~18:00
開催場所	横浜市役所1階スペース AB
出席者 【敬称略】	部会委員) 杉崎、植松、加藤、川原、後藤、松村 事務局) 横浜市: 榊原、萩原、村田、秋浦、石田、古谷 市民セクターよこはま: 加世田 横浜市住宅供給公社: 岡部、土屋、高橋
開催形態	公開
議題	1 まち普請事業の拡充を踏まえた令和5年度の進め方について
決定事項	なし

議事

	1 まち普請事業の拡充を踏まえた令和5年度の進め方について
事務局	「資料1 まち普請事業の拡充を踏まえた令和5年度の進め方について」説明
杉崎部会長	来年度の拡充については、来年度の新しい部会委員でも再度議論をするということですか。
事務局	来年度一回目の部会でも議論を行う予定です。
杉崎部会長	今回の拡充は中期計画の基本戦略によるものということですが、拡充は2023年から2025年の三か年なのか、それより先も引き続き拡充されたままなのか。
事務局	市の中期計画だけでなく国としても子育てを打ち出してしているので、子育てプラスというネーミングで拡充を検討していますが、全体の事業の趣旨は変えないことで市内の理解は得ています。拡充の効果が出て、継続していく事業になれば4年後(2026年)以降も拡充したままというのはあると思います。
杉崎部会長	なるべく件数を確保したままいければいいですね。
事務局	本日は審査基準やリーフレットの構成を中心に議論をできればと思います。
事務局	「資料1-1 コンテスト審査基準、投票方法、選考方法について」説明
杉崎部会長	審査基準の公共性に基本戦略への貢献度を新たに含むということですが、行政計画との整合性なので申請書の段階でチェックしてほしいような気がします。申請書にこの項目を特別に書かせるなど考えていますか。
川原委員	これまでより何がプラスされるのかと基本戦略を見てみると、今まであまり考えていなかった生産年齢人口の流入を目指すなど、今までのまち普請にプラスできるものをリーフレットなどに書けるといいと思います。基本戦略が新たな審査基準となってしまうとすごくやりづらいと思います。
杉崎部会長	実際は審査基準ごとに細分化して点数化しているわけではないのですが、意識してほしいということですか。
事務局	子育てプラスの名称を議論したときに、子育て提案に加点するという話を言われましたが、そうすると今までのまち普請の総合評価の投票方法から変わってしまうので良くないのではないかと市内で話をしていました。そうすると子育て提案に対する評価

	をどこで見ると議論をしている中で、公共性の中に子育ての視点を加えることで整理できないかと考えました。
杉崎部会長	同じところを危惧していて、「子育てをしたいまち」は単純に子育ての当事者だけでなく、子育てしやすい地域社会を目指しているということをどこかに書いておかないといけないと思います。
加藤委員	提案グループからすると子育ての提案であれば加点されるから絶対書かないといけないと感じると思います。助成件数拡充の解釈を理解せずに鵜呑みにしたような拠点整備が増える恐れがあると思います。
後藤委員	来年度拡充する背景は4月の募集開始の際にどこかに書きますか。なぜ急に増えたのかというのは皆さん疑問に感じると思うのでそのあたりの説明はするのでしょうか。
杉崎部会長	子育てプラスの説明はいると思いますが、助成件数拡充の説明は不要ではないですか。
加藤委員	拡充の趣旨が基本戦略に基づくのであれば、それを書いたほうが良いと思います。
川原委員	提案グループが基本戦略の内容を見てくれればいいですが、子育てしたいまちという文言に意識が向かってしまいそうなので、基本戦略5つの目標を列記して、平等に打ち出したほうが良いと思います。
事務局	基本戦略を理解してもらって応募してもらおうということですね。
川原委員	基本戦略5つを列記して、今までにない発想の提案を促すというプラスの意味が伝えられたらいいと思います。今までも子育て支援やコミュニティ施設はあると思いますが、都市の持続可能性などあまりまち普請で意識していないもののほうが若い人にアイデアがあったりするので、従来のイメージを突破する可能性がある前向きなものに捉えられたらいいと思います。
杉崎部会長	基本戦略がありきではなく、まち普請が基本戦略に貢献している事業であるような書き方ができればいいと思います。
川原委員	海外では30代くらいの人たちが都市のサステナビリティに対していろいろなことをやっていて、何かをやるときに二酸化炭素を出さないどころか減らすための発想を考えるなど、それくらい例示する手もおもしろいと思います。具体例がないとこの基本戦略はあまり考えてもらえないと思います。行政だけがやる感じになってしまう。
加藤委員	基本戦略の内容が分かるリンクを貼って、それに基づくような提案がきたら面白いですね。
杉崎部会長	過剰に子育てを書くことで応募する側が意識しすぎてしまうと思います。審査基準に書くかどうかですが、審査員は細かい項目に分けて審査しているわけではないです。
川原委員	拠点系が増えている中で、もう少し違う発想に対して応援したいという意見があると思います。それを促す意味で審査基準に新しく入れるのは私はいいいと思います。子育てが独り歩きしないように基本戦略5つをすべて出す。
松村委員	審査基準に子育てを加えるかどうかにかかわらず、審査員は理解したうえで審査はできると思います。加えないほうが良いと思う理由は、リンクが貼ってあり基本戦略の中身を見れば内容は理解できるといっても、子育てプラスというタイトルに引き寄せられると思いますし、二次元バーコードで見てくださいというのも難しいと思います。

	むしろリーフレットで基本戦略をきちんと説明したほうが、選択肢があるということ を考えるきっかけになり、多様性を促せるではと思いました。
杉崎部会長	審査基準ではなく、申請書で基本戦略の該当項目をチェックする方法もあると思いま した。
川原委員	申請書にチェックするのは良いと思います。
加藤委員	該当項目のチェックに加え、その項目を選んだ理由も書けると分かりやすいと思いま す。
杉崎部会長	審査基準に加えるのではなく、申請書でチェックするのはどうでしょう。
事務局	審査基準には加えず、手引きなどに中期計画の基本戦略に寄与する事業であることを 記載するなど検討します。
後藤委員	1次コンテストは上限がないので10件を超える可能性があるということでしょうか。
事務局	そうです。
川原委員	今までは少し上がった提案だと理解しきれず落ちてしまっていました、そういうも のが救えていいのかもしれませんが。
松村委員	過去の傾向は審査方法により変わるので、審査員側が件数を意識しているかどうかで 変わるとは思いますが、2票目を入れる数を自分のなかで操作する付度が必要なのかど うか。
杉崎部会長	来年度改選して新しい審査員になったときに、そのニュアンスを制約にとらえられて しまうかもしれないという気もします。
加藤委員	2票目は相対評価という仕組みはあると思います。
杉崎部会長	1次コンテストで10件通過するとなったときに、職員や協働事務局、コーディネータ ーそれぞれの現実的な役割の整理が必要だと思います。
川原委員	コンテストという競争要素を残すのかどうかは考えていかないといけないと思いま す。
事務局	選考件数の制限がある中で、コンテストで「選ぶ」ことも大事だと考えています。一 方で、良い提案は選考するべきという話もあります。
川原委員	大学だと競争型だと採択されるか落ちるかの二択ではありますが、いいところまでい ったものはもう少し支援しますというような、まち普請でいうと2次コンテストは通 過しなかったけれど一定得票数を得たものは次年度1次コンテスト免除でなく予算が つくというのは難しいでしょうか。
加藤委員	2025年以降を考えると、選考件数は上振れ下振れしないほうが良いと思います。
川原委員	予算枠内で敗者復活用の予算を確保などが良いと思います。
杉崎部会長	2次コンテストも同じ議論だと思いますので、次に進めます。
事務局	「資料1-2 令和5年度1次コンテストの構成について」説明
杉崎部会長	1次コンテストにおいて情報収集タイムはいらぬのではという提案ですか。
後藤委員	ざっくばらんに話を聞く場として重要だと思うので、あったほうが良いと思います。
松村委員	なしでいいと思います。その場合に提案する人が想いを伝えられるかだと思います。 その機会を情報収集タイムで確保するのか事前のコミュニケーションで確保するの

	<p>だと思いますが、基本戦略の話や2次コンテストまでの支援を通して、狙いを伝えられるように促すなどそちらを充実させることも考えられると思います。</p>
加藤委員	<p>なくても良いと思います。実際の情報収集タイムではポイント整理で聞きたいと思った部分から話してもらおうので、たとえば情報収集タイムを完全になくすのではなく、ポイント整理に対するフィードバックをする時間として特に話したいものだけ話してもらったり、ポイント整理に対する回答を紙に記載してもらい、それを休憩時間で共有したりできれば、情報は集まってくると思います。</p>
植松委員	<p>わたしは情報収集タイムはある程度機能していると思っていました。提案グループは他の団体を見て気づく部分があり、そういう部分を情報収集タイムで審査員とやりとりをする中で軌道修正してまとめることがあると思います。</p>
杉崎部会長	<p>いずれにしても、審査する際に審査基準と比較しやすいような申請書の様式であれば情報収集タイムは省略できると思います。活動懇談会のステップアップシートが分かりやすく審査しやすいと思いました。申請書を見直すことで、知りたい人と書く人のギャップが減るのではないのでしょうか。あとは共有の仕方も効率的にやる方法があるのではと思います。</p>
川原委員	<p>グループは1次コンテストでは計画の熟度がない分、情報収集タイムで軌道修正して話をしていたと思います。また、中心メンバー以外の熱量が分かる時間だと思うので、1次コンテストはむしろあったほうが良いと思いますが、審査員全員で回るのではなく、分担して時間を短くしつつ、1グループにじっくり意見を聞くというのもあるかなと思います。ステップアップシートはあるといいと思います。</p>
杉崎部会長	<p>審査員全員が全グループ回らなくてもいいと思いますが、これも提案数が分からないと決められないと思います。</p>
事務局	<p>ステップアップシートは申請書とは別という使い方もあると思います。</p>
杉崎部会長	<p>申請書でなく、ステップアップシートで十分という意見もあったと思います。</p>
松村委員	<p>ステップアップシートは聞かれていることに答えるというよりも、自分の言いたいことを言うということになりかねないので、申請書を書き出す前にあのシートを使うようなイメージをしています。</p>
加藤委員	<p>ステップアップシートが申請書のベースとなる補足資料となると、単なる助成金としてまち普請を見つけた人にとってはステップアップシートの使い方は難しいと思います。一方で、参考に使ってくださいとなると書かないグループもいると思います。</p>
事務局	<p>ブースに充てる作業をステップアップシートの作成に変えて、コンテスト前に提出というのはあるかもしれません。プレゼン資料と一緒に提出にすれば負担は変わらないと思います。</p>
加藤委員	<p>グループはステップアップシートをベースにプレゼンを作れば良いと思います。</p>
事務局	<p>ブースにビジュアルはなくても、委員が回ることで成果があがるのであれば情報収集タイムは設けるという意見もあると思います。ステップアップシートに関してはこれを用いて整理して、申請書が書ければスムーズだなという感覚はあります。</p>
杉崎部会長	<p>書類にないものがブースに欲しいですが、それをきれいにパネルにする必要はないで</p>

	す。
川原委員	ブースで新たな情報があると、実際は短い時間の中でコミュニケーションをとりながらだと資料は読めないのでは、パワポで載っている資料をメリハリをつけて見せる場所とすればいいかと思います。ブースでの新たな資料はNGとするなど、ブースで説明したい資料はプレゼンとパワポにしておく。
加藤委員	説明したいことはプレゼン資料の中に出しておけばブースのサイズも小さくできると思います。
川原委員	パワポは手元資料にあるので、気になったところを事前に確認して、情報収集タイムで質問できると思います。
事務局	ブースは簡素化してパネル1枚とし、掲示する情報を制限するなどのルール作りなどを検討します。
杉崎部会長	審査員は申請書などの書類が手元にあってそれを見ていて、それをベースにしたもので各グループが掲示するものを検討するという事です。
事務局	「資料1-3 令和5年度活動懇談会、現場見学会の開催方法について」説明
川原委員	今年度は1グループ何分ですか。
事務局	30分です。
松村委員	パターン①の審査員を2班に分けて行うのが現実的かと思います。
川原委員	行けなかったグループの分は動画で見るといのはどうでしょうか。そうしたら雰囲気も分かります。
加藤委員	現地は見たいので弾丸で10グループすべて回るが、質疑は車内で事前にズームで回答してもらおうなどはどうでしょうか。
杉崎部会長	現地でのプレゼンは活動報告が多いので、あそこまで丁寧にはいらなくてもいいかもしれません。場所が見たいので。
植松委員	見られなかった年度はこちらもモチベーションが下がるというのか、実際に見たいというのが本音です。二日に分けて、行ける人は両日行くほうがいいのかと思います。現場で熱量が分かる感覚はありました。
事務局	「資料1-4 令和5年度提案募集リーフレット案について」説明
川原委員	審査基準と同じでこんな提案をほしいというのを書いたほうが良いかと思います。子育てという文言が多いのでやはり影響されてしまうのではと思います。
後藤委員	基本戦略にも触れたほうが良いと思います。
加藤委員	過去の整備事例はどこかにまとまっていますか。いま載っている事例の二つがメインにとられてしまうかもしれないので、ほかの事例もあってもいいと思いました。
川原委員	基本戦略の5つに対応する事例があるといいと思います。事前相談のところは、応募期限の1週間前までなど期間を設けたほうが登録が来るかもしれません。
加藤委員	事前相談や事前登録も必須ではないですが、全員行うものとして仮登録のような位置づけくらいのがいいかもしれません。
川原委員	事前登録に間に合わなかった方はご相談くださいなど。
後藤委員	件数が増えることは書かないのでしょうか。拡充というだけだと分かりづらいです。

事務局	今までも選考件数を明言していないので、具体的に増える数を明言できません。
川原委員	リーフレットの上 2/3 のスペースにまち普請の特徴がないと手に取ってもらえないのではないのでしょうか。ハード整備できるまちづくり提案大募集！など。
植松委員	地域の困りごとを解決できますというフレーズもほしいです。
川原委員	課題解決と魅力向上の両輪だと思います。SDGs もマーク一つあればいいので、絵のイメージもあったほうがいいと思います。あまり自分のやっていることがまちづくりだと思っていない人もいますので、自分のやっていることがキーワードで書いてあると応募しやすくなるのではないのでしょうか。
加藤委員	子育てプラスは書かないといけないのでしょうか。
事務局	文言として書く必要があります。
川原委員	子育てプラスはまち普請印と同じアイコンにしたほうがいいと思います。これから活躍してほしい人向けに講座などができないでしょうか。不動産組合に話をしてチラシを配るなど狙い撃ちしたほうがいいと思います。中学校のPTAなどにも何かやりたい人がいると思うのでそこにPRしに行くのもあると思います。
杉崎部会長	将来的に明確にターゲットを決めてチラシを配るなどを考えてみると良いと思います。
加藤委員	採択された団体にヒアリングして、提案しそうな知り合いを聞いたり、取材された媒体にヒアリングしてそこに広告を出したりなどもあると思います。チラシを送られてもどうしたらいいのか分からないと思うので、電話して直接どなたかいないですかと聞いたほうがいいかもしれません。
杉崎部会長	Coco-ya の代表のような若い建築家などもいいと思います。
加藤委員	大学の建築学科もいいかもしれません。
松村委員	HP は見にくく、弱点だと思います。目的の情報までの動線が分かりにくい。
杉崎部会長	あとは区役所に選考件数拡充を連絡することでしょうか。具体的な周知先があれば事務局までお願いします。
事務局	「資料 2 令和 4 年度 2 次コンテストアンケート概要」「資料 3 広告協賛についての報告」「資料 4 - 1 令和 4 年度整備施設状況について」「資料 4 - 2 「ぷらっと kiricafe」のオープンについて（記者発表資料）」「資料 4 - 3 「モヤキラ CAFE」のオープンについて（記者発表資料）」説明、報告

資料

- (資料 1) まち普請事業の拡充を踏まえた令和 5 年度の進め方について
- (資料 1 - 1) コンテスト審査基準、投票方法、選考方法について
- (資料 1 - 2) 令和 5 年度 1 次コンテストの構成について
- (資料 1 - 3) 令和 5 年度活動懇談会、現場見学会の開催方法について
- (資料 1 - 4) 令和 5 年度提案募集リーフレット案について
- (資料 2) 令和 4 年度 2 次コンテストアンケート概要
- (資料 3) 広告協賛についての報告
- (別紙 1) 広告協賛 広告募集案内

(資料4-1) 令和4年度整備施設状況について

(資料4-2) 「ぶらっと kiricafe」のオープンについて (記者発表資料)

(資料4-3) 「モヤキラ CAFE」のオープンについて (記者発表資料)